

サービスラーニング活動を振り返って

社会福祉学部社会福祉学科 2年 竹森 亮太

活動先：NPO 法人 ふれ愛

クラス：村上 徹也 先生

1. 活動先について

私が活動を行ったふれ愛は、有償ボランティア、介護保険事業、障害者自立支援事業を行っている施設である。実際に私は、認知症の方が過ごしているグループホームの方で活動をした。グループホームは、自分で歩いて行動できる人、車いすを必要とする人など、自分でご飯が食べられる人、食事介護が必要な人と、様々な介護レベルの方がおられた。

2. 活動内容と気づき

6日間行った実習では、主にお昼のレクリエーションを担当した。行った活動は、中華料理作り、風鈴づくり、風船バレー、オリジナル神経衰弱、中国語講座、ミニゲームだ。

1日目のレクリエーションでは、中国語講座を行った。私は、初めて認知症の方と携わるという事で不安がたくさんあった。その結果、ただ、考えてきた内容をやるだけで、利用者さんの反応を見なかったりと、臨機応変な対応ができなかった。また、認知症の方の特徴（情緒が不安定でいきなり怒ったり）を十分に理解しておらず、とても職員さんの力を借りてしまった。このとき、もっと事前学習（認知症の方の症状等）を学んでおいてから、この活動に臨めば良かったと後悔した。

初日は、自分たちの考えたレクリエーションを利用者の皆さんに伝え、やってもらうので精いっぱい、利用者さんとのコミュニケーション、利用者さんの生き甲斐作りといった点を考えずに活動してしまった。職員さんにその日の振り替えりのときに言われたのだが、レクリエーションを指導する自分が楽しむという事がまずは前提と言われた。私は、利用者さんが楽しめればいいという一心だったが、それでも利用者の方はもちろん楽しめる。しかし、自分たちが一番楽しむということが、利用者さんにとって一番いいレクリエーションの形ではないのかと、私はその日の振り返りで思った。このことを一番の念頭に置き残りのSL活動を行った。

最初の頃は、利用者だけしか見ることができなかったが、SL活動が進むにつれ、心に余裕が生まれ、利用者と利用者の関係、利用者と職員の関係、職員と職員の関係を見ることができた。このようなことに目を配ると、今まで気づかなかったことにたくさん気づくことができる。また、疑問も湧いてくる。

人と人との関係の中で問題は次から次へと出てくる。その時にどう解決するか、1つの視点ではなく、いろんな視点から見るが必要で、それにより、今まで出てこなかった問題や利用者さんの考えなどが分かるのではないかと思った。利用者さん一人一人の支援マ

ニュアルがあり、それによって支援目標を共有するのは大事だが、そこにたどり着くまでのプロセスは人それぞれ違ってよく、むしろ違ったほうが支援する人の個性が出てよいと聞いた。この職員さんの言葉は、とても私の心に響いた。この言葉は、介護の現場だけではなく、自分の部活などいろんな場面に共通しているのではないか？このような考えを持っていると、より広い視野でよりよい生活を送れると思った。

3. 地域での暮らしについての気づき

ふれ愛が開設された理由について代表の方が、会社員時代から、助け合いのグループを作りたいと思っておられ、定年後、ホームヘルパー養成講座に参加し、その時の仲間と一緒に、高齢者・障害者や困難を抱える家庭等にホームヘルパーを派遣された経験をきっかけに、無償ボランティアとして活動を開始したとっておられた。このことを聞き、代表の方が地域にとても目を配っておられたのだと思った。また、ホームヘルパー養成講座という、きっかけ作りの大切さも見えてきた。私は、ふれ愛に初めて行った時、「ここはあなたのお家ですよ」という文字を玄関で目にした。私は、SL活動を通して、これがNPO法人を運営する一番の理由ではないかと思った。その地域で過ごしている人が、自分の家のように過ごせるアットホームな雰囲気から安らげる場を提供するためにふれ愛はあるのではないかと思った。ふれ愛の理念である、「人は皆老いて子どもにかえる、年をとっても、病んでも、困難を抱えても、この町で安心して暮すことが出来るように私たちは社会貢献を目指して行動しましょう」が、何よりも地域で活動するということ、その地域の住民が支えあっていく重要性を示しているのだと思った。

4. 来年度の学生へのメッセージ

その施設がどのような利用者さんがおられ、利用者さんがどのような症状なのか事前学習はとても大事なことだと思う。認知症という言葉だけからでは、ただ、物忘れが激しいなどといったことしか考えられないが、実際には喜怒哀楽が激しかったりなど、その人それぞれの症状が見受けられた。ある程度知っていることにより、もしものとき、落ち着いた対応がとれると思った。だから、事前に本やインターネットで認知症の方の症状や特徴を知っておくことは、とても必要なことだ。

また、レクリエーションを多く知っておくのもとても大切なことだと思う。レクリエーションは、利用者の方の生き甲斐作りのために必要不可欠なものだと思った。また、コミュニケーションをはかるツールとしても使える。レクリエーションで、利用者さんの笑顔や、楽しかった、またやりたいという言葉聞くだけでも、自分も幸せな気持ちになれたと今でもあのときにうれしさを覚えている。レクリエーションは本やインターネットで探せばたくさん出てくると思う。しかし、僕の場合は、ちょうどレクリエーション実技の講義を受講していたので、毎週いろいろなレクリエーションを教えていただいた。レクリエーション実技の講義を受講することもお勧めする。